

状態ごとの施設入居事例

状態にあった施設

各施設の特徴

入居検討時のポイント

入居の相談先

有料老人ホームとサ高住

事例紹介

4. 入居検討時のポイント

元気になうちに住まいを検討することもあれば、疾病後の退院先のことで必要に迫られて検討する場合など様々な時期があります。是非、施設選びの際には親族だけでなく、専門家(ケアマネジャーや、病院のソーシャルワーカー)のアドバイスを受けた方が後悔することもなくなるでしょう。

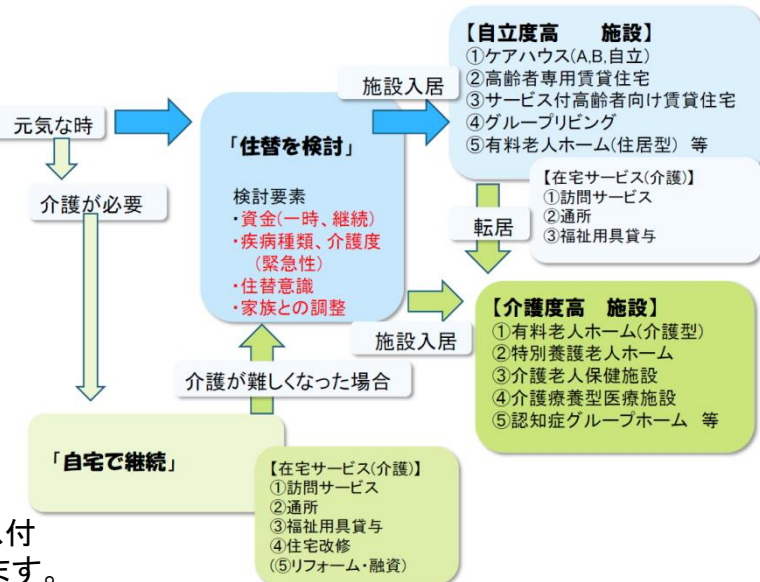
4-1. 入居検討する際のフロー(右図)

検討にあたり、大切なことは、ご本人の状況がどのような状態であり、どのような過ごしたいか、また将来予想される状態を医師等専門家に確認しておくことです。

もちろん、入居にあたり手持資金、や家族との調整も充分配慮する必要があります。

4-2. 入居を検討する際のポイント

ここでは、有料老人ホームとサービス付高齢者向け賃貸住宅を中心に説明します。



検討項目	ポイント
1. 5年間総額費用 10年間総額費用	入居金と月額費用から、5年間または10年間にかかる費用を積算し、利用者の支払える可能財産額と相談しましょう。その際介護保険外の費用も考慮します。
2. サービス内容	費用=サービスとなります。また介護スタッフの充実しているホームではどうしても、サービス内容が手厚く、その分費用も高くなっています。どのようなサービスがあるか、費用面も含め把握しましょう。
3. 部屋の付帯設備	利用者の使い勝手のよい設備機能があることを確認することは大切です
4. 立地	立地場所は、閑静な住宅地であったり、にぎやかな場所であったりします。また、ちょっと、おでかけができる公園や店の配置が近所にあることも検討しましょう
5. 食事提供スタイル	自前で調理するところもあれば、外部に委託のところもあります。見学時には是非一度召し上がって、自分の口に合うか試してみましょう。
6. 医療充実度	医療的な手当が必要な人には、看護師の常駐があったほうがよいでしょう。
7. スタッフ比率	介護や看護の専門職の配置比率が高いところは、それなりに充実しているでしょう。
8. 実際の入居者の様子	見学の際に、入居者の様子を見て、ご利用者の状態にあっているか充分見極めることも大切です
9. レクリエーション	どのようなレクリエーションがあるかは日常生活するうえで大切な要素です。
10. 人気度、稼働率	一般的に稼働率の高いホームは、人気度は高いです。
11. 経営者や施設長	直接、責任者に話を聞いて、本人やご家族の考えと合うか聞いてみることも大切です。特に施設長の想いは良くも悪くも施設全体に影響しています。